

愛精会 議会報告

平成22年2月発行
発行責任者 植山米一

議会の存在意義は住民の代弁者として、また行政のチェック機関としての使命があります。
政策能力を高め、充実した活力ある議会を目指し取り組んでる愛精会です。



すぎやま よしひろ
杉山 義尋

建設産業常任委員会委員



わだ きみこ
和田 貴美子

民生環境常任委員会委員
予算決算常任委員会委員



うえやま よねかず
植山 米一

建設産業常任委員会委員長



もりた よしひさ
森田 喜久

予算決算常任委員会副委員長
総務教育常任委員会委員



もりもと しげる
森元 茂

民生環境常任委員会委員

【議員定数について】

議員定数削減案が12月議会に提案されました。
議会運営委員会で継続審査する事になりました。

【提案理由】

自治体議員の定数は、その自治体の面積や財政事情、人口と住民の意向、近隣自治体の議員定数などを総合的に加味して定数を定めるべきである。現在の精華町の議員定数は町制施行以来51年、一度も見直しはされていない。よって、定数を18人に削減するため提案するものです。

議会運営委員会で提案理由に基づき質疑された内容の主なものを以下のとおりまとめました。

問 定数削減と議員報酬の減額による町財政の影響は？

答 町財政に影響を与えるものではないので考えていません。

問 定数4名減の18名とした根拠は？

答 小学校区単位で3～4名の議員×5校区で18名を目安として考えました。小選挙区制は考えていません。

問 住民の意向はどの様にして汲み取るのか？

答 住民の意向は5月の選挙において議員定数削減を公約した議員が9人います。この事で住民の意向は、汲み取れていると考えます。

※以上の点をふまえて、議会運営委員会で住民懇談会を開く事に決定しました。

※愛精会としての考え方

議員の働きは行政のチェック機能〔税の執行等〕を高め、執行者の権限の片寄りを防ぐとともに住民の代弁者として、議会機能を強め、議会基本条例に基づき改革を進める努力をしています。これまで以上に地方へ権限委譲がなされる事により、議員の資質の向上と共に議員の数は大きな力となります。

よって、定数削減という大事は慎重かつ十分検証する必要があることから継続審査に賛成しました。

研修報告

- 平成22年1月7日～8日
場所 全国市町村国際文化研究所
講演

①演題「分権改革の新展開と自治体の議会議員に求められるもの」

内容

- ・「平成の大合併」を経ても人口20万以下の市が85%を占めている。よって事務権限の委譲は進んでいない。
- ・再び合併では市町村がますます疲弊してしまう。
- ・議員定数も上限が廃止される中、議会の存在意義や住民から必要とされる議会を目指すべきである。

②講演「地域の特性を活かしたまちづくり」

内容

- ・歴史と町づくり、個性のある町づくりを進めていく上での事例を参考に紹介がありました。

③フォーラムディスカッション

- ・食からの地域づくりについて(茨木県常陸太田市)
昆虫の生態から品種の特性、栄養の分析も行い、品質の良い物を販売。
- ・葉っぱビジネス(徳島県上勝町)
高齢化率45%の町で仕事をつくる事が第一と考えると底から活気ある町へと蘇生した経験を学びました。
- ・モクモク手作りファーム(三重県伊賀市)
環境にやさしい、物づくりを実践している。
観光客一人当たりの単価設定を1時間1,000円×滞在時間3時間とする事で経営の安定をはかり、消費者目線を大切に内容の充実に努めています。

- 平成22年1月27日
場所 京都市立京都御池中学校
目的 「小中一貫教育」及び「けやきプロジェクト」について
内容

平成18年度より京都市小中一貫教育特区として小学校5年中学校4年とし、9年間を一貫のカリキュラムとする。系統的、連続的に力をつける事を目的とし取り組んでいる。また、地域、保護者、学校が連携してのプロジェクトの成果は児童、生徒の生きる力となっていると実感しました。「地域の子どもは、地域で育てる。」を目標とし、発達状況や授業の専門性の必要、安心して中学校生活を送れる等、利点の多い小中一貫教育の導入を検討すべきと考えます。

